

米軍無人偵察機の日本国内への一時展開について

背景

- 我が国を取り巻く安全保障環境が厳しさを増し、周辺国の軍事活動が活発化する中、情報収集・警戒監視・偵察（ISR）活動はますます重要。
- 特に、優れたISR能力を有する米軍との協力は極めて重要であり、米軍は、2014年以降、グアムを拠点に運用されている米空軍の無人偵察機グローバル・ホークを日本（三沢飛行場及び横田飛行場）に一時的に展開。

本年における米軍無人偵察機の展開計画及びその意義

- 本年は、以下の米軍無人偵察機が日本国内へ一時展開される予定。
 - ① 米空軍グローバル・ホークが横田飛行場へ展開（5月下旬頃から約5か月間）
 - ② 米海軍トライトンが三沢飛行場へ展開（5月中旬頃から約5か月間）。
- （※）トライトンは、グローバル・ホークを海洋監視用に改良した機種。
- 今般の一時展開は、米国による我が国防衛への揺るぎないコミットメントを示すとともに、周辺国による海洋活動が活発化する中で、我が国周辺における海洋監視能力の強化をもたらし、我が国の安全保障にとって有益。

グローバル・ホーク(RQ-4)



トライトン(MQ-4)



主任務	地上監視(画像等の情報収集)
日本への展開実績	<ul style="list-style-type: none"> ・2014年5月～10月 三沢 ・2015年7月～12月 三沢 ・2017年5月～10月 横田 ・2018年6月～10月 三沢 ・2019年8月～10月 横田 ・2020年7月～9月 横田

主任務	海洋監視(画像等の情報収集)
日本への展開実績	なし

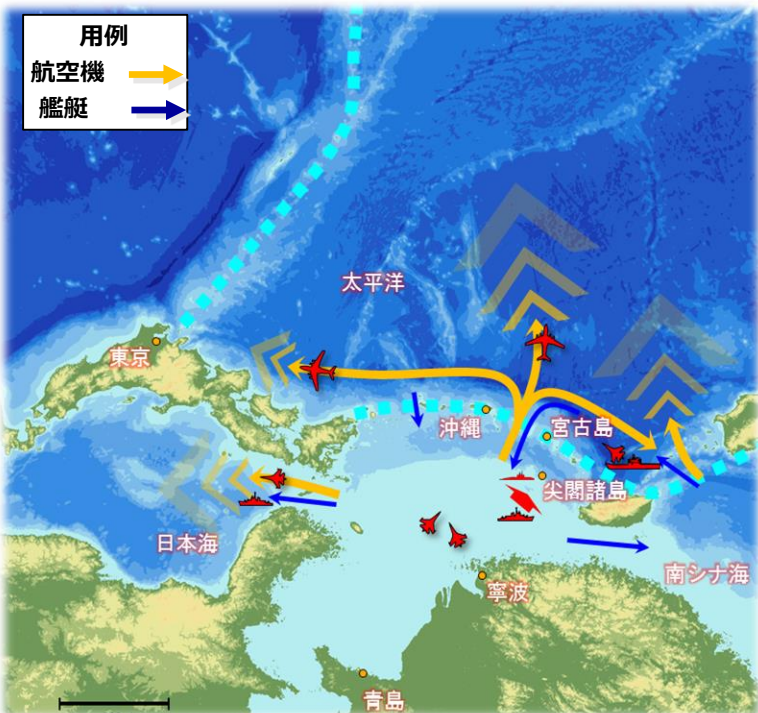
(参考) 周辺国による海洋活動

北朝鮮—いわゆる「瀬取り」



- 2018年以降、東シナ海の公海上で「瀬取り」の実施が強く疑われる24回の行為を海自哨戒機等が確認し公表を実施。
- 我が国は、国連安保理決議の下、米国を始めとした関係国と緊密に連携して、「瀬取り」に対する情報収集を実施。

中国—我が国周辺海空域における活動の「常態化」



- 太平洋・尖閣諸島周辺における空母「遼寧」による活発な活動
 - 2021年4月、同空母から艦載ヘリコプターが飛行

空母「遼寧」



- 尖閣諸島周辺における海警部隊による恒常的な活動
 - 2021年2月、国際法との整合性に問題のある規定を含む中国海警法が施行

海警船

